



カッサラ州の農業省や生産者組合を対象に開かれたセミナー



乾燥機を使ってできた商品(写真左)。天日乾燥のタマネギ(写真右)に比べて色が白く品質も良い



大紀産業株式会社がカッサラ州に試験導入した大型電気乾燥機



国際協力の担い手たち

# 大紀産業株式会社

## 農家待望の乾燥タマネギの復活へ

アフリカ東部のスーダン。長く続いた内戦からの復興に向けて、日本は農業分野における支援を貧困削減への重点課題の一つに掲げている。こうした中、岡山県の企業が長年培ってきた食品乾燥の技術を生かし、農村の女性たちの生計向上を目指して奮闘している。



乾燥機にかけたタマネギを粉碎する女性たち。スーダンでは乾燥タマネギをそのままスープに入れて食事が多いが、このように粉碎してパウダーとしても販売している

### 市場価格が大暴落 タマネギ農家に打撃

切り干し大根、ドライトマト、干し柿——日本のスーパーには、さまざまな乾燥野菜やドライフルーツが立ち並び。近年、こうした商品を作るための食品乾燥機の需要は、規格外の農産物の有効活用や、農業の多角化の面からも高まっている。

スーダン東部に位置するカッサラ州は、タマネギの栽培が盛んな地域だ。かつて、ここにはロシアと提携した国営の大規模なタマネギ乾燥工場があったが、スーダンとロシアの外交関係が悪化し、工場は10年前に操業を停止。その後、乾燥工場向けの生のタマネギが市場に流入し、価格の大暴落を招いた。「もともと小規模だった現地のタマネギ農家はますます貧困に陥り、乾燥タマネギを復活させたいとの切実な声が数多く聞かれていました。こうした状況の中、スーダンで農業支援を続けている日本人技術者からの要望を受け、私たちの会社がその復活に向けて取り組みことになったのです。こう話すのは、食品乾燥機の国内トップメーカーである、岡山県の大紀産業株式会社の安原宗一郎社長だ。

今年で創業70周年を迎える同社の強みは、開発、生産、販売を全て自社で行っていること。野菜や果物の他にも、きのこやお茶などさまざまな食品乾燥機の製造・販売を手掛け、近年では中

国や東南アジア向けに輸出もしている。「開発途上国では、生鮮食品を産地から消費地まで低温に保ったまま流通させるコールドチェーンが未発達な国が多いのが現状です。特に農産物が腐りやすい高温多湿の地域では、食品乾燥機のニーズは高いといえます」と安原社長は説明する。

同社はスーダンにおけるタマネギ乾燥加工のビジネスモデルの構築と、農村女性を中心とした生産者の生計向上を目指したプロジェクトに乗り出し、昨年3月、120キログラム処理タイプの大型電気乾燥機をカッサラ州に試験導入した。電気を熱源とするこの乾燥機は、灯油を熱源とする従来のタイプに比べてランニングコストが3割少なく、メンテナンスの手間もかからない他、二酸化炭素を排出しないなど多くのメリットがある。安原社長は、「加工作業の一部は人の手で行うことになりました。今回は特に働き口の少ない農村女性をターゲットとしているので、新しい雇用創出と女性の所得向上にもつながると考えています」と話す。

### 苦勞を乗り越え 確かな効果と手応えを実感

プロジェクトの総責任者を務める安原社長は、現地の生産者たちに対して、乾燥機の使い方をはじめ、洗浄、スライス、乾燥、包装といった作業工程を指導した。また、カッサラ州政府の農



現地のタマネギ畑で生産組合の担当者と打ち合わせを行う安原社長(右から2人目)

業省を巻き込んだセミナーを2回にわたり開催しただけでなく、取り組みをスーダン全域に拡大するために、首都ハルツームの連邦農業省でもセミナーを行った。「まずはスーダンの人々に乾燥機を知ってもらうことが大切だと考えています。そのため、セミナーでは実際の活動内容を報告した後、参加者からの質問に答えたり、要望をヒアリングしたりする時間を十分に設けるようにしています」

実務面ではさまざまな苦勞があるという。「スーダンでは首都から移動するたびに、国が発行する移動許可証が必要となります。移動許可証の取得に

は申請から約2週間かかるため、カッサラ州に入るためには渡航前から準備を進めなければなりません。また、アメリカとの外貨取引も制限されているため、米ドルから現地通貨への交換はできますが、現地通貨から米ドルに交換することができないのです」と安原社長。日本と異なる環境に起因する難しさはあったものの、現地で活動する青年海外協力隊の支援を得ながら、乾燥機の可能性を探るために約1年間の調査を続けた。

その結果、乾燥機を使ったタマネギは、スーダン国内のスーパーなどに出回っている天日乾燥のものに比べて色が白く高品質に仕上がりが、安原社長は十分に差別化を図っていると実感したという。乾燥タマネギ生産工場の責任者であるモアテズ・アハメット・エレサフイさんも、最初は乾燥機の効果に半信半疑だったが、出来上がった真っ白なタマネギを見てからは自信を持ち、率先して作業員たちの指導に当たるようになった。

JICAの中小企業海外展開支援事業に、岡山県の企業として初めて採択された大紀産業株式会社。現地の人々が復活を熱望している乾燥タマネギの本格的な生産・販売の開始に向けて、今後はカッサラ州以外の地域にも大型電気乾燥機を導入し、普及を目指していく方針だ。岡山から世界に羽ばたく企業の先駆けとして、挑戦はこれからが正念場となる。